

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録, 異国情緒あふれるスリランカ
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 115, No. 10, pp. 24-25
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 115, No. 10, pp. 24-25
発行日 / Pub. date	2018, 10



知財見聞録

異国情緒あふれるスリランカ

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

風にたなびくサリーは異国情緒

バンダラナイケ国際空港は、スリランカ最大の都市コロomboから北に35km程の距離にあり、コロombo国際空港とも呼ばれる。筆者がスリランカの地を初めて訪れたのは、2005年3月のことであった。空港に到着すると目に入ってきたのは、スリランカ航空の地上職員であろう伝統衣装の深紅のサリーを身にまとった女性がタラップの下に一列に並んでいる姿。肌の色とサリーの色が妙にマッチして、風にたなびくサリーが異国情緒にあふれ、一瞬別世界に来たかのような感覚を覚えた。

スリランカの概要

スリランカ民主社会主義共和国はインドの南東にポーク海峡を隔てて位置する島国。人口は約2144万人(2017年)で、その7割が仏教徒(上座部仏教)である。6万5607km²(北海道の約0.8倍)の小さな国で、シンハラ人(74.9%)、タミル人(15.3%)、スリランカ・ムーア人(9.3%)の民族からなる。

経済の面は、紛争の終結による復興需要や経済活動の活性化等によって、2012年に過去最高となる9.1%の経済成長を達成した。その後は毎年5%程度の成長を続け持続的な経済成長を遂げている。主要産業は、農業(紅茶、ゴム、ココナツ、米作)、繊維産業。名目GDPは、876億米ドル(2017年)、一人当たりGDPは、4085米ドル(2017

年)で、インドの約2倍。2017年の失業率は4.4%。海外からの観光客数も治安の改善を受けて回復し、2016年は200万人を突破した。

内紛の歴史

1948年2月4日、イギリスから自治領(英連邦王国)のセイロンとして独立。1972年にはスリランカ共和国に改称して、英連邦内の共和国となり、1978年から現国名となった。新しい国名になって内政が落ち着くかと思いきや、1983年、シンハラ人とタミル人の大規模な民族対立が起こり全土に暴動が広がった。

1987年には、反政府組織タミル・イーラム解放のトラ(LTTE)が独立を宣言し内戦は続いた。1989年には、シンハラ人の急進派指導者が殺害されている。そして2000年代にも、2001年7月のLTTEによるバンダラナイケ国際空港襲撃事件、2007年のLTTE本拠地である北部キリノッチへの空爆、2009年にはLTTE最高指導者プラブハカラン議長の遺体発見と事件が続いたが、2009年5月、政府はLTTEの完全制圧

と内戦終結を宣言し、長年にわたる内戦状態に終止符を打った。

内紛の続くなかでのシンポジウム

筆者が講演のためにスリランカに降り立った2005年は、これら一連の内紛が続いていた時期。コロomboで開催された、WIPO主催、スリランカ国家知的財産権局および日本特許庁の協力によるシンポジウムは「知的財産権制度の開発と活用によって私的機関と公的機関の協力を強化すること」を目的としていた。

このイベントを通じて、内戦が継続している国で知的財産をテーマとしたシンポジウムを開催することに関しては、国際機関と一国民が持つ認識に大きな違いがありそうだとあらためて考えさせられた。もっとも筆者は、スリランカの内紛に関する知識がほとんどないままでの渡航であった。

スマトラ沖地震の大津波

加えて、シンポジウム開催の前年には、スマトラ島沖地震で発生した津波により死者3万人以上という大きな被



ガンガラーマ寺院を外から拝観



シンポジウムの様子

害を受けたばかりであった。2004年12月26日にインドネシア西部、スマトラ島北西沖のインド洋で発生したマグニチュード9.1の大規模な地震である。この地震により津波が発生し、インドネシアのみならず、東南アジア西部、東アフリカ等でも被害が発生した。

スリランカでは、3万5322人が死亡、負傷者数は1万6637人、行方不明者は5637人、家を失った者は83万人以上だとされている。これだけの大災害の3カ月後であったため、渡航前は中止になる可能性も十分に考えていたが、予定どおりの開催となった。

当時、空港からコロombo市内に向かうバスの車窓には、明かりが消えた真っ暗な家々が並んで見え、地震の被害からいまだに復旧していないからだろうかなど考えを巡らせた。そして、シンポジウム参加者にも家族や友人が被害を受けたという人が多いだろうことを思うと、顔を合わせたときに交わす言葉はどうあるべきか……悩ましかった。実に、心痛む渡航であった。

その後、2006年、2009年と合計3度にわたるスリランカ訪問であったが、いずれもWIPO主催で、2006年は「TMO; Technology Management Officeの効果的機能における知的財産権の役割」、2009年は「特許制度の戦略的活用による大学および公的機関からの技術移転」というテーマで、知的財産制度の活用に関心を置くシンポジ

ウムであった。長年内戦状態が続くなかでの知的財産制度の普及と発展を目的としたシンポジウムであり、貴重な経験をした。

スリランカの知的財産制度

現在の国家知的財産権局は2003年知的財産法（同年法律36号）の下に設立され、スリランカの知的財産制度の管理運用を担っている。

国家知的財産権局のビジョンは「国家のための市場志向の知的財産制度を達成することを目的とした、質の高い生産的なサービスを提供する主要な政府機関」であり、「強い経済の確立とイノベーションへの投資を促す、創造性と起業家精神を促進する知的財産制度の確保」を使命としている。具体的には、以下の業務を遂行する。

- ・ 知的財産情報の収集と普及
- ・ 知的財産に関する意識の醸成
- ・ 経済発展プロセスにおける知的財産の利用の促進
- ・ 知的財産に関するスリランカの国際的義務の履行と知的財産に関する地域的および国際的協力の促進
- ・ 知的財産に関する政策の提案
- ・ 著作権および著作隣接権の分野における紛争解決、知的財産権のエンフォースメントの円滑化
- ・ 知的財産代理人の登録と管理

2003年11月に施行された2003年知的財産法には、知的財産権分野におけ

る一連の詳細規定が含まれている。同法により、著作権、著作隣接権、商標、特許、工業意匠、秘密情報を含む不公正な競争に対する保護、集積回路のレイアウト設計、地理的表示の各分野における知的財産権が規定されている。

スリランカはTRIPS協定を批准しており、同協定の導入・実施に必要な国内法案についても、WTOの調査・審査を終了した。

各種の知的財産権の保護期間は次のとおり。

著作権：作家の生涯期間およびその死後70年。

工業意匠：5年。ただし、連続5年の期間更新が2度まで可能。

特許：20年。

商標：10年。連続10年の期間更新が、無制限に可能。

著作権、工業意匠権、商標権を侵害した場合、2003年知的財産法の規定に従い、50万スリランカ・ルピーの罰金または6カ月の懲役、あるいはその両方の刑罰が科せられる。

南アジアの輝く島国

インドのすぐ南に輝く小さな島国のスリランカは、2009年の内戦終結後の勢いが内政の強化を図り、大統領への集権化、統一の実現と平和、インフラ整備、観光業の復活により急速な経済発展を成し遂げている。これからも南アジアの魅力的な存在でいてほしい。